

新型コロナウイルス感染症の影響で、町を代表するイベントが、中止を余儀なくされています。6月の「あつま田舎まつり」に続き、来年1月の開催予定だった「あつま国際雪上3本引き大会」も11月下旬に中止が決まりました。長期化が懸念されるコロナ禍での対応が、関係者の頭を悩ませています。田んぼのオーナー制度や被災地ツアー、いも掘り体験を主催する町観光協会会長の池川さんに話を伺いました。



厚真町観光協会会長  
池川 徹さん(59歳)  
いけがわ とおる

柔軟な発想と視点で町を盛り上げたい

「あえて言うなら、私の趣味はイベントの開催ですかね」。柔らかなまなざしが、メガネの下からのぞきました。町出身で、筋金入りの厚真ファン。これまで、仕事を終えると仲間たちと飲食を共にしながら、イベント開催のアイデアを出し合ってきました。しかし、今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、夜のマチも自粛。「今年のようにイベントを開けない」と

体がなまって動かなくなるかもしれないと、冗談交じりに歯がゆさをにじませました。  
6人がガイドを務める通年型の「胆振東部地震被災地ツアー」は、感心を集めています。修学旅行などで遠方に行けない道内の小中学生たちも訪れるそうです。復旧作業が急ピッチで進む半面、震災の傷跡を伝えるのが難しくなってきました。「震災の記録写真などを

集め、町青少年センターのプラネタリウムで投影して、新たな観光資源にできないだろうか」と、池川さんは構想を練っています。  
また、春の種まきから田植え、収穫までを体験してもらう田んぼのオーナー制度は、プロ野球の北海道日本ハムファイターズの復興支援「ふあい田」ATSUMAプロジェクト」にも発展しました。今年も、種まきと田植えが中止になりましたが、10月の稲刈り体験では、多くのオーナーがマスク着用で稲刈りを楽しみました。「自粛から解放されたみたいで、たくさん笑顔に元気をもらいました」と声を弾ませました。  
柔軟な発想と視点を大切にする池川さん。曇りの無い言葉から熱意が伝わります。間もなく還暦を迎えますが、まだまだ現役。「前例踏襲ではなく、イベントを進化させながら、町を盛り上げたいですね」。

あなたにとっての  
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック  
@atsumatownhokkaido



インスタグラム  
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

# ATSUMA LOVERS